

ランを活用した空間展示

沖縄熱帯植物管理株式会社

長谷川 遼

1. はじめに

1) 会社概要

当社は、昭和 55 年に設立され、今年で設立 44 年目になるラン類を初めとした植物の維持管理と販売を行っているランの専門業者です。

主な業務として、国の施設である国営沖縄記念公園内にある「熱帯ドリームセンター」のラン類を中心とした植物の維持管理業務および沖縄県の玄関口である「那覇空港ターミナルビル」のラン類及び観葉植物の管理及び展示業務を行っています。また、

「沖縄美ら海水族館」ではラン類に加え、海岸性の植物を主とした観葉植物の展示も行っています。さらに、自主事業では、リゾートホテル等への植物の展示と維持管理及びランの専門店「フラワーショップ蘭らん」を運営しています。これらの施設は沖縄

観光の主要拠点であるとともに沖縄を代表する観光関連施設でもあります。当社では、自分たちの得意とするラン類および熱帯植物を活用し、花と緑であふれる観光施設作りを行っています。



2) 背景

1986 年の熱帯ドリームセンターオープン当時では、ランは貴重で高価な花として知られ、その花の美しさに触れるだけでもお客様に驚きと感動を与え、満足度の高いものでした。しかし、現在では、ランは、草花並みの値段で販売される品種もあり、手軽に楽しむことが出来るものへと普及して来ました。「熱帯ドリームセンター」といった専門性のある施設での展示や「那覇空港ターミナルビル」のような大型施設での展示には更なる工夫が求められています。

当社では、平面展示から立体展示へ、個体展示からデ



デザイン性の高い装飾展示、自生地を再現した自然形といった修景展示へと日々、工夫を行っています。

今回は、当社がランを使って、施設の空間や壁面、柱などを装飾した事例を発表します。

2. ランの生育特性を生かした展示

1) ランの生活様式からの利用

ラン類は主にエビネ類やシンビジウム類などの土壤に根を張り生活している地生ランと、コチョウラン、カトレア、デンドロビウム、オンシジウムなどの樹木や岩の表面に根を張り、主に雨水や空気中の養分で生育している着生ランの2つに大きく分類できます。今回は着生ランを用いた事例をいくつか報告します。

着生ランはその生活様式から、栽培においても様々な培地や資材に対応でき、展示方法も様々な応用できるのが特徴です。自然に近い状態での着生展示はもちろん、躯体を使った立体展示を行う場合にでも有効です。

2) 沖縄の気候との組み合わせ

沖縄県は国内で最も、自生している野生ランの種類が多い地域であり、その気候は多種あるラン科植物の生育に適している事がわかります。このことは多くの園芸品種のランにおいても同様で、植物にとっても負担の少ない、より生き生きとした状態での展示が可能です。

当社では、これらの技術を設立以来およそ半世紀にわたり研究し、より沖縄の地にあった、ラン類の選定や栽培方法の確立をしてきました。こうして栽培されたランたちの魅力を沖縄ならではの展示方法で、お客様に伝えていきたいと考えています。

3. 着生での展示

1) 樹木への着生

特徴…着生ラン本来の自生に近い姿、樹皮に力強く根を張る様子や年月とともにダイナミックに成長していくランの姿が観察できます。

工夫…着生させる品種の特性を理解する。適した樹木の選定・日当たりなどの環境の整備が必要となります。沖縄の自生種であるイリオモテラン (*Trichoglottis ionosma*) は非常に活着も良く毎年春には花を咲かせます。世界最大のランとして知られるグラマトフィラム スペシオサム (*Grammatophyllum speciosum*) ではドリームセンター内に着生させている株においてもおよそ2mに成長しています。また海外原産のものでカトレア類 (写真: *Cattleya skinneri* var. *coerulescens*) は

活着後、ほぼ自然のままで毎年花を楽しむことができます。



2) ヘゴ材への着生

特徴…幅広い品種に対応でき、小型のヘゴ板を利用する場合では複数の株を一様に管理でき、スペースに合わせての立体展示が可能です。また大型の資材を使うことで、自然形の再現も可能な上、移動も比較的容易です。

工夫…小型のものを多数組み合わせでの空間演出や、観葉植物と合わせて展示することで、限られたスペースや商業施設などにおいても自然に近い形での展示が可能です。当社ではヘゴ板に着生させたデンドロキラム属 (*Dendrochilum* sp.) などのランを開花時期に一面に配置したり、大型のヘゴ材に着生させたグラマトフィラムを空港内の展示に利用しています。



3) 枯木への着生

特徴…自然に近い形ながらも、温室等での管理も容易なため、様々な品種を栽培でき、開花調整などを行うことで、通年で印象的な展示利用が可能です。へゴ材と同様に資材のサイズも様々選択でき移動も容易に行う事が出来ます。

工夫…個体での展示の場合でもランの持つ独特な草形を見せることが出来ます。珍奇植物や希少種を利用してその魅力を最大限楽しむことができます。

当社ではフウラン (*Vanda falcata*)・ナゴラン (*Phalaenopsis japonica*) といった自生種を野生に近い姿で見ていただくように利用しています。またバルボフィラム属 (*Bulbophyllum* sp.) などの株の形に特徴のあるランを、よりワイルドに演出するために利用しています。



4) 丸太等への着生

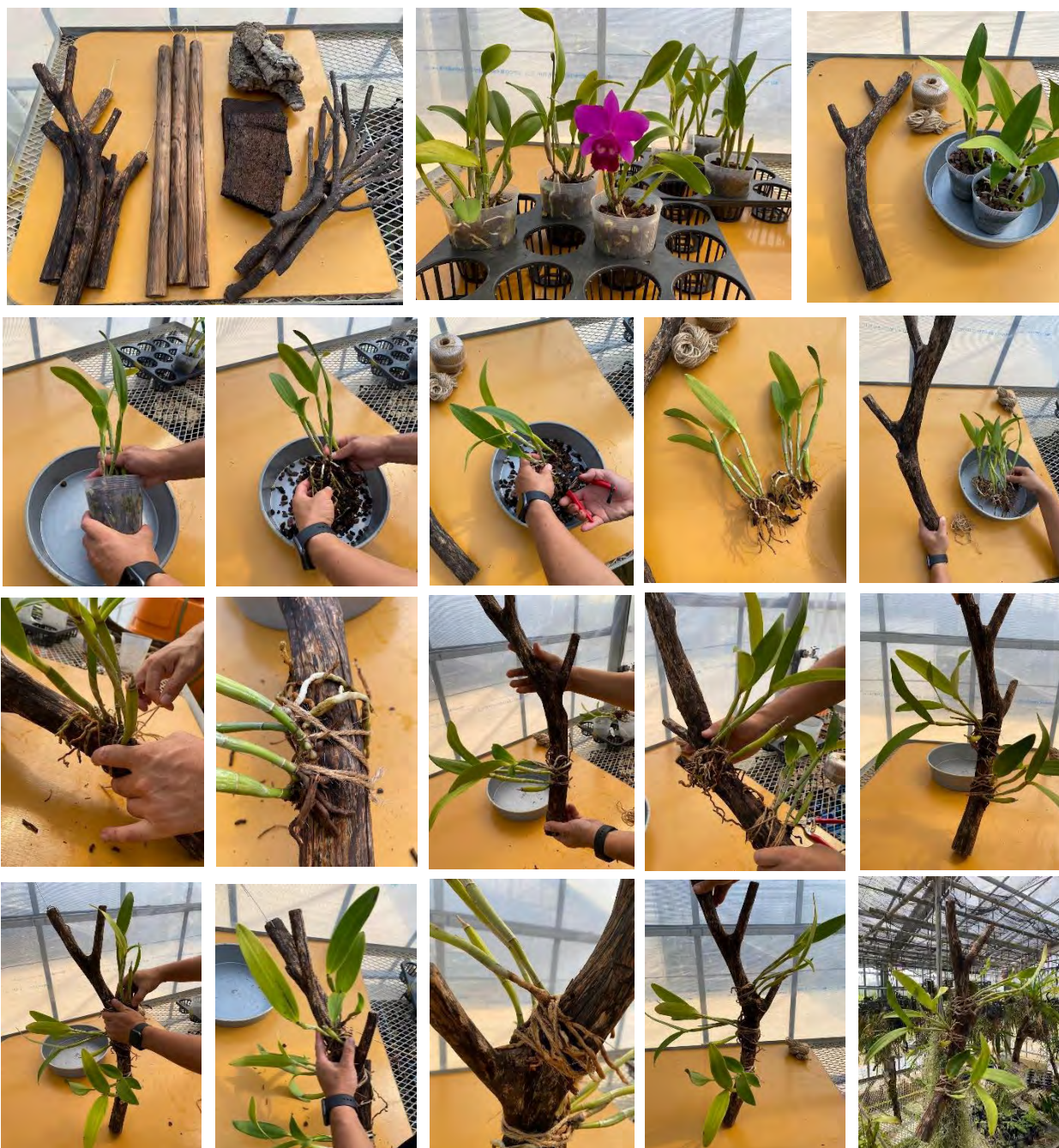
特徴…野性味あふれる着生ランの魅力を生かしながらも、デザイン性の高い展示などにも利用できます。また資材も容易に得られ、再利用にも向いているため低コストで製作でき、多数を一様に栽培・管理することが可能です。

工夫…開花期に一斉に展示することでボリュームあふれる花の空間を作り出すほか、植栽された樹木と組み合わせて展示することで、展示スペースの印象を大胆に変更することが出来ます。ドリームセンター内での展示ではオンシジウムを着生させたものと鉢物を組み合わせての花のトンネルを製作しています。またカトレアやデンドロビウムを使い、自宅でも手軽に着生スタイルが楽しめるような商品作りも行っています。



5) 着生の手順と管理方法

着生の手順はどの資材を用いる場合でもほぼ同様で、ランの成長の向きを確認しそちらにスペースを確保しつつ、なるべく根を傷めないよう資材面に広げ、紐などで固定します。固定後しばらくは小まめな灌水が必要となりますが、新しい根が動き出し、十分に活着すると特別な管理は必要ありません。屋外の樹木に着生させたものについては、根の活着後は、ほぼ自然の状態で生育可能です。



4. 躯体を使つての立体展示

1) スマートパネルを使つての立体展示

特徴…パネルの組み合わせで多種多様なデザインを作り出すことが可能です。柱や壁面の装飾においてもサイズに合わせて自在に施工することが出来ます。また灌水や植物の入れ替えなどのメンテナンスも容易に行う事が出来ます。

工夫…レストランや空港内の壁面や屋外の柱に、フレッシュな観葉植物とランの花を展示することで、沖縄の持つ南国の花と緑のイメージを演出しています。また、植物の入れ替えだけでなくデザインの変更も定期的に行い常に目新しさを提供しています。



2) 吊り下げ・クラゲ・ぼんぼり等

特徴…主に切り花を主体に利用する方法で様々なデザインを表現することが出来ます。空中にランの花々が浮かんでいるような幻想的な空間を作り出すことが可能です。

工夫…生花をふんだんに使用することで、花の持つみずみずしさや香りを感じることが出来るよう、常に新鮮な切り花を提供しています。また躯体製作の際は展示場所や使用する花にマッチするものを使用し、様々な方向から花を楽しめる様なデザインを作り上げています。



3) ディスプレイ等

特徴…これまで上げた技術を組み合わせて、表現したいテーマに合わせた、ストーリー性のある大型の展示物を作るものです。

工夫…、枯木や岩を模した造形物などを組み合わせ、沖縄の自然を再現する自然形や、専用の躯体を組み上げたアート性の高いデザインなど様々に対応できます。さらには水の流れや滝の再現など、驚きを与えるような手法を取り入れています。



5. おわりに

ランは沖縄の気候特性にもマッチしていることから、商業施設での装飾、贈答用、街路樹への着生と幅広く利用され沖縄を象徴する花へと利用が拡大してきました。

当社ではおよそ半世紀にわたり、ランの栽培管理に携わり、時代とともに変化して行く産業に合わせて、普遍的なランの魅力を様々な展示方法で発信してきました。近年では、SDGs といった環境問題に対する取り組みや、2021年には、沖縄県北部を含む世界自然遺産の登録によって、保全・保護を目的とした植物展示にも注目が集まっています。当社でも沖縄に自生する野生ランをメインに扱った展示や資材や植物の再利用に重きを置いた展示方法の開発に取り組んでいます。

今回の発表では、特に沖縄での栽培・展示にあった着生ランの利用方法を中心に取り上げさせていただきました。ランは花の豪華さ美しさと合わせてもう一つ、大きな特徴をもっています。それは開花期間が長いということ。このことからランは非常に利用価値の高いものと言えます。

私たちは、島のいたるところでランが飾られ、それぞれの家庭でも皆がランを楽しんでいる。そんな、花と緑であふれランに囲まれる島

『オーキッドアイランド・オキナワ』となるように、ランが暮らしの中に浸透していくような活動を行っていきたいと考えています。

